

2016年

9月 市民公募委員サロンだよ！

平成28年度第1回市民公募委員サロンを開催しました。



- 対象：京都市の附属機関等で市民公募委員として就任している皆様
- 日時：平成28年9月13日（火） 午後7時から午後9時まで
- 場所：職員会館かもがわ 大会議室
- タイムテーブル

19:00	開会、趣旨説明
19:10	参加型パネルディスカッション「市民公募委員ってどんな存在？」 ～座長、事務局、市民公募委員…それぞれの立場の本音を聴いてみよう！～
19:50	休憩
19:55	グループ交流（25分×2ラウンド）
20:45	全体共有
21:00	閉会

開催
目的

- ・各会議で市民公募委員の積極的な発言が増え、市政への参加意欲が一層高まるよう市民公募委員が自身の役割を学ぶとともに、様々な委員と交流して意見交換を行う。
- ・市民参加推進フォーラム委員が、他の附属機関等の公募委員の実情を理解する。



参加者

45名

・市民公募委員	24名
・京都市職員（一般参加）	6名
・ゲスト	1名
・市民参加推進フォーラム委員	9名
・市民参加推進フォーラム事務局	5名

※ 市民参加推進フォーラム：京都市の市民参加を推進する附属機関

参加型パネルディスカッション「市民公募委員ってどんな存在？」

【司会】



【パネラー】



樋口 幸則 氏

「市民参加推進フォーラム」
市民公募委員

大石 純子 氏

「京都をつなぐ無形文化遺産審
査会」「まち・ひと・とこが織り
成す京都遺産審査会」
事務局職員

西村 睦 氏

「京都駅東南部エリア活性化方
針策定委員会」市民公募委員、
「市民参加推進フォーラム」
元市民公募委員

石井 雄一郎 氏

「地域コミュニティ活性化推
進審議会」市民公募委員、
「市民参加推進フォーラム」
元市民公募委員

永橋 爲介 氏

「市民参加推進フォーラム」
前座長

市民公募委員に期待される役割

・附属機関等で話し合われる内容は、会議後、行政の施策となり発信される。その先には、専門家ではなく市民の皆様がいる。自分と無関係と感じられる施策ではなく、市民の方が関心を持ち、共感し、協力したいと思える施策になってほしい。市民公募委員と一緒に議論する場で考えられたものが発信されることがとても大事だと考えている。（大石・市職員）

・市民公募委員は自ら手を挙げて委員になっており、専門家よりずっと意欲がある人もいます。各附属機関の座長・副座長、また、他の委員や事務局は市民公募委員の意見を引き出す役割があるのではないかと。（永橋）

市民公募委員として感じること

・市民参加推進フォーラムの会議は、どの委員も分け隔てなく意見を言い合う雰囲気があり、話しやすかった。（石井）

・市民参加推進フォーラムでは、わからないことを座長や他の委員、事務局に尋ねたら丁寧に教えてくれた。今所属する附属機関では、議論の内容を深めるために、積極的に提案していきたい。（西村）

・市民参加推進フォーラムにおける自身の意見が政策に反映され、「市政に参加している」という実感につながっている。別の附属機関では、発言する時間が短かった。発言した意見が、今後、政策にどのように反映されるのか疑問であり注視したい。（樋口）

相互理解のための対話

・何か疑問があったり、思っていたのと違うと感じたら、率直に事務局の担当者と直接話せば良い。（永橋）

・行政には毎日いろんな意見が寄せられており、きちんとお聞きしている。市の研修でも、行政がものを考える際には、実際にサービスを受ける市民の方がどう感じるかを考えてやるべきだとされている。事務局に、率直に意見を言ってもらえれば、受けとめて検討することや、事情を説明することができる。（大石・市職員）

・意見を出して頂く時間配分等を含め、会議の進め方を検討したい。意見や質問があれば、なんでも聞いてほしい。（大石・市職員）

グループ交流・全体共有



グループ交流①
6グループ 25分

席替え

グループ交流②
6グループ 25分

全体共有
15分



テーマ①
「委員になってみての感想
(良いことも悪いことも含めて)」

テーマ②
「附属機関等の会議をよくする
ためのアイデア、心がまえなど」

専門家が専門用語を多用する会議では、素人考えで口を挟んで良いものかとためらいがでる。そんな中でも、市民の立場からの意見や感想を求められているので、臆することなく自由に発言したい。

発言を自由にしすぎると、会議が空中分解することもある。自由に意見を言いつつ、建設的な会議をするならば、事前に到達目標を明示する必要がある。そこを担えるのは事務局職員や座長である。

公募委員募集のチラシに、前委員からの応援メッセージが載っていると、応募するときに何を期待されているのかイメージしやすいかも。

和やかな雰囲気をどう醸し出せるかが大事。委員同士の関係作りをしっかりとしたい。会議の前後に委員同士で雑談や相談のできる時間がほしい。

会議を休んだ時に、次の会議についていけるようなフォローが欲しい。

最近委員に選任され、まだ会議が開催されていないため、状況が分からなかったが、議事録を確認でき、内容も教えてもらえることがわかり安心した。

自分の意見が議事録に載ったり、政策に反映されると嬉しい。

席が遠いと声が聞きづらく、会議への参加意識も薄れる。
席のレイアウトも考えてほしい。

委員になり初めての会議で、学識者の方が事務局に対して専門的な質問をし、足りない資料をたくさんオーダーして終わった。どうしたら良いのかわからない気持ちでいたが、グループワークの中で、「その学識者の方に、『なぜその資料が必要で、それがあれば何が良くなるのか』をあなたが聞いたらいいんじゃない』と言ってもらい、自分の役割がイメージできた。

準備をきちんとして、意見が言えるようにしたいので、資料を早めにもらいたい。

市民公募委員の立場として、市民意見を代表して発言すべきだと気負っていた。素朴に疑問に思った事などを、市民として率直に発言して良いことを知り、次の会議で発言しやすくなった。

「市民公募委員サロン」アンケート（回答数22）

1. 参加の動機

- ・会議にどう関われば良いか分からなかったため。
- ・他の委員と交流を持ちたかったから。
- ・市民公募委員としての務めを果たすため。
- ・たまたまお知らせが来たから。

2. 参加後の心境の変化や抱負

- ・自分の感覚、素朴な発言も望まれている事が分かった。
- ・筋を通してしっかり意見を出したい。
- ・事務局と積極的に関わりを持ち、会議に臨みたい。
- ・各々の立場で、自由に発言すれば良いと気づかされた。
- ・市民公募委員の意見をしっかりと聞く姿勢を持ちたい。(市職員)

3. 良かった点

- ・色々な体験をしている人と出会い、意見が聞けた。
- ・様々な立場の方とフラットに話せて雰囲気が良かった。
- ・他の附属機関等の雰囲気を知ることができた。
- ・今後、会議に参加する上で参考になる意見が聞けた。

4. 改善した方が良い点

- ・各附属機関の特質・特性の違いを考慮することが必要。
- ・はじめは仲良しの集まりなのかと思った。
- ・アイスブレイクに時間がかかり、話す時間が足りなかった。
- ・もっとたくさんの方に参加してほしい。
- ・場所が分りにくかった。入口に誘導員を配置してほしい。

5. 今後も参加したいか

○参加したい（20名）

- ・いろいろな人と交流ができる。仲間と会える。
- ・今回とても有意義だったので。勉強になるので。
- ・論点が整理され、次のアクションに繋がるのであれば。

○無回答（2名）

6. 今後の開催に当たり、聞きたいこと等

- ・実行力を高めるためのあり方をもっと議論したい。
- ・京都市職員の思いや工夫、ぶっちゃけ話が聞きたい。
- ・公募委員として会議に参加することで変わった点。
- ・どれだけの附属機関等があり、何名の委員がいるのか。
- ・なるべく早く開催日時を教えてください。